

もっと知りたいNECキャピタルソリューション ～中期計画Q&A～

当社は2011年4月に「中期計画2011」を発表しました。ここでは、株主の皆様から寄せられたご質問にお答えします。

「情報・通信技術が拓く新しい社会資本インフラの実現を先導していく企業」
を目指すとのことですが、具体的にはどうということですか？

中期計画2011の位置づけ

2011年4月に公表した中期計画2011は、第2の創業期の意気込みで検討を重ねたものです。既存のリース事業が厳しい事業環境にある中、どのような新しい事業の柱を立てていくか。第3次中期計画では、既存のリース事業に加え、金融ソリューション事業、資産ソリューション事業という2つを注力分野と位置づけ取り組んできました。そこで構築した事業基盤をベースにどのような方向性に活かしていくかを定義したものが中期計画2011と言えます。

なぜ「新しい社会資本インフラの実現」なのか？

中期計画2011を策定する中で、NECの冠をつける企業として本来当社が何をなすべきなのか、当社のアイデンティティは何なのかを考えたとき、辿りついたものが社会資本インフラです。NECグループでは、放送映像システムや制御システム、交通・公共システム、消防・防災システムなど様々な社会インフラに対し、その高度な運用をICT(情報通信技術)により可能とするサービスを展開しており、得意分野のひとつとしています。これらの分野への投融資、またその資産の周辺に生まれてくるアセットマネジメントを中心とする収益モデルの構築を行うことが、本来当社が担うべき使命なのではないかという整理に至り、今回の中期計画の目指す姿として提唱しました。

例えば、風力発電等の再生可能エネルギーの普及を金融面からサポート

福島第一原子力発電所の事故以来、わが国のエネルギー政策は大きな岐路を迎えています。資源の少ない日本において、枯渇しないエネルギー資源である「再生可能エネルギー」への期待が高まり、風力発電や太陽光発電等の事業の可能性を探る動きが目立ってきました。また昨年

関心の高まっている電気自動車も、その広い普及には充電ステーション等のインフラの整備が必要になってくるでしょう。これらの今後成長するであろう新たな社会資本インフラについては、当然NEC自身もICTの観点からアプローチしています。当社としても、リース・レンタル、ファイナンス、アウトソーシングビジネスなど、金融サービス会社としての切り口から取り組むことで、NECグループの市場機会を開拓していくことができるとともに、中期計画2011で標榜する「新しい社会資本インフラ」の実現、拡充に貢献できると考えます。

民間企業の「モノ・カネ・ヒト」が求められる時代に

日本では多額の国債・地方債を発行しており、累積債務は増加の一途を辿っています。こうした財政状況を背景に、従来は国や地方自治体主導で行われていた公共性の高い社会インフラの整備も、最近ではPFI※1やPPP※2といった手法で、民間企業の「モノ・カネ・ヒト」を活用し、事業運営されるケースが目立ってきました。もともと当社はリース取引の半数以上が官公庁・自治体向けであり、公共性の高い案件に従事してきましたが、新しい事業機会を的確に捉え、今後は、こうした形で地域や社会により積極的に関わりを持っていければと思っています。足元では、当社では初めてになりますが、首都圏内のPFI案件につき、参画することが決まる等、着実にその歩みを進めています。

今後の成果につきましては、プレスリリースや株主通信等で随時株主の皆様にお知らせしてまいります。

※1 PFI(Private Finance Initiative)

民間資金を活用した社会資本整備、つまり民間の資金、経営能力及び技術能力を活用して公共施設などの建設、維持管理、運営などを行う事業。国や地方自治体が基本的な事業計画をつくり、資金やノウハウを提供する民間事業者を入札などで募る。

※2 PPP(Public Private Partnership)

官公庁と民間事業者がパートナーを組んで事業を行うこと。たとえば水道やガス、交通など、従来公営で行われてきた事業に、民間事業者が事業の計画段階から参加して、設備は官公庁が保有したまま、設備投資や運営を民間事業者に任せる民間委託などを含む手法を指している。PFIはPPPの手法の一つ。

中計発表資料は

ウェブをご参照ください。

NECキャピタルソリューション IR 中計発表資料

<http://www.necap.co.jp/ir/irevent/index.html#event02>

検索

IR Café



株主総会レポート

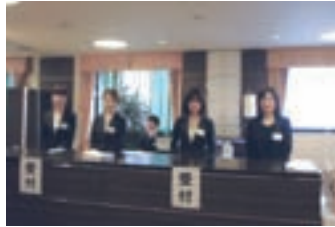
第41期定時株主総会を開催

2011年6月27日、第41期定時株主総会をメルパルク東京(東京都港区)にて開催いたしました。年々、ご来場くださる株主の方が増えていることから、定員200名の本会場に加え、サテライト会場(テレビのモニター中継で株主総会にご参加いただく別のお部屋)をご用意しておりました。ちなみに昨年度は、235名の方にご参加いただき、過去最高記録となっております。

株主総会の開始時刻、午前10時。本会場を覗いて見ますと…既にほぼ満席状態となっております。議長である社長が開会を宣言した後、監査役からの会計報告、社長によるプレゼンテーション形式の第41期事業報告および本日の2議案の説明を行い、質疑応答にうつりました。6名の株主様からいただいた13問のご質問は、当社の今後に対する真摯なご質問ばかりでした。

総会開始後も多くの方にご来場いただき、議案は2つとも可決。株主総会の所要時間は1時間25分、最終的にご参加いただいた方は317名。記録をまたまた更新したのでした。

株主総会は、会社における最高意思決定機関であります。同時に株主の皆様と直接お話ができる貴重な機会であると認識しています。株主総会会場横の株主様控え室では、会社を紹介するパネルの展示や当社がメディアに取り上げられた記事のスクラップ、給茶コーナー等をご用意し、当社への理解を深めていただけるよう工夫しています。また、説明員を配置し、株主総会会場で質問することに抵抗がおりの方でも、気軽に質問いただけるような環境づくりをしています。数ある株主総会の中で当社の株主総会に来てよかった、と思っていただけるよう、改善を重ねていきたいと考えています。引き続き、ご指導のほど、よろしくお願いいたします。



株主総会受付



株主様控え室

決議事項

- 第1号議案 取締役8名選任の件 【可決】
- 第2号議案 補欠監査役1名選任の件 【可決】

IRカレンダー

- 10月下旬 第2四半期決算発表
- 12月上旬 中間配当支払、
第2四半期株主通信発行予定
- 1月下旬 第3四半期決算発表
- 3月上旬 第3四半期株主通信発行予定

編集後記

4月に中期計画2011で当社の新たな方向性を発表したことを受け、今回から株主通信のデザインを一新しましたが、どんな印象をお持ちになったでしょうか。さて私は、6月に初めて山形新幹線に乗り、株主優待品のカタログギフトの会社へ見学に行つて参りました。その時に見たカタログの山が、それぞれ皆さまのお手元に届き、ご注文を頂いている頃かなと思いをさせております。だいが先になってしまいますが、次回はそのレポートをお届けできればとも考えております。今後もよろしくお願いいたします。(T)

株主の皆様の中にも、もしかするといらっしゃるかもしれませんが、私は上場以来の株主通信をクリップでとめて机に置いています。2005年の上場以来ですので、15冊目(途中のマンガ冊子は除く)です。実は、前回くらいから厚みが出すぎてとめられなくなり、更に大きなクリップに変えたところ。上場7年目の重みを実感! 7年もあると世の中も会社も人も色々なことがありますよね。すぐく手前味噌ですが、私は、「この会社は様々な可能性を持った楽しい会社」と思って7年前に中途入社しました。7年経った今でも、「やっぱりこれからが楽しい会社」という思いは変わりません。新しい中期計画に一社員として期待しています。(Y)

NECキャピタルソリューション

REPORT

第42期

2011年4月1日 ▶ 2011年6月30日

株主通信 第1四半期

中期計画Q&A

もっと知りたいNECキャピタルソリューション

Empowered by Innovation

NEC



リースの、そのつぎへ

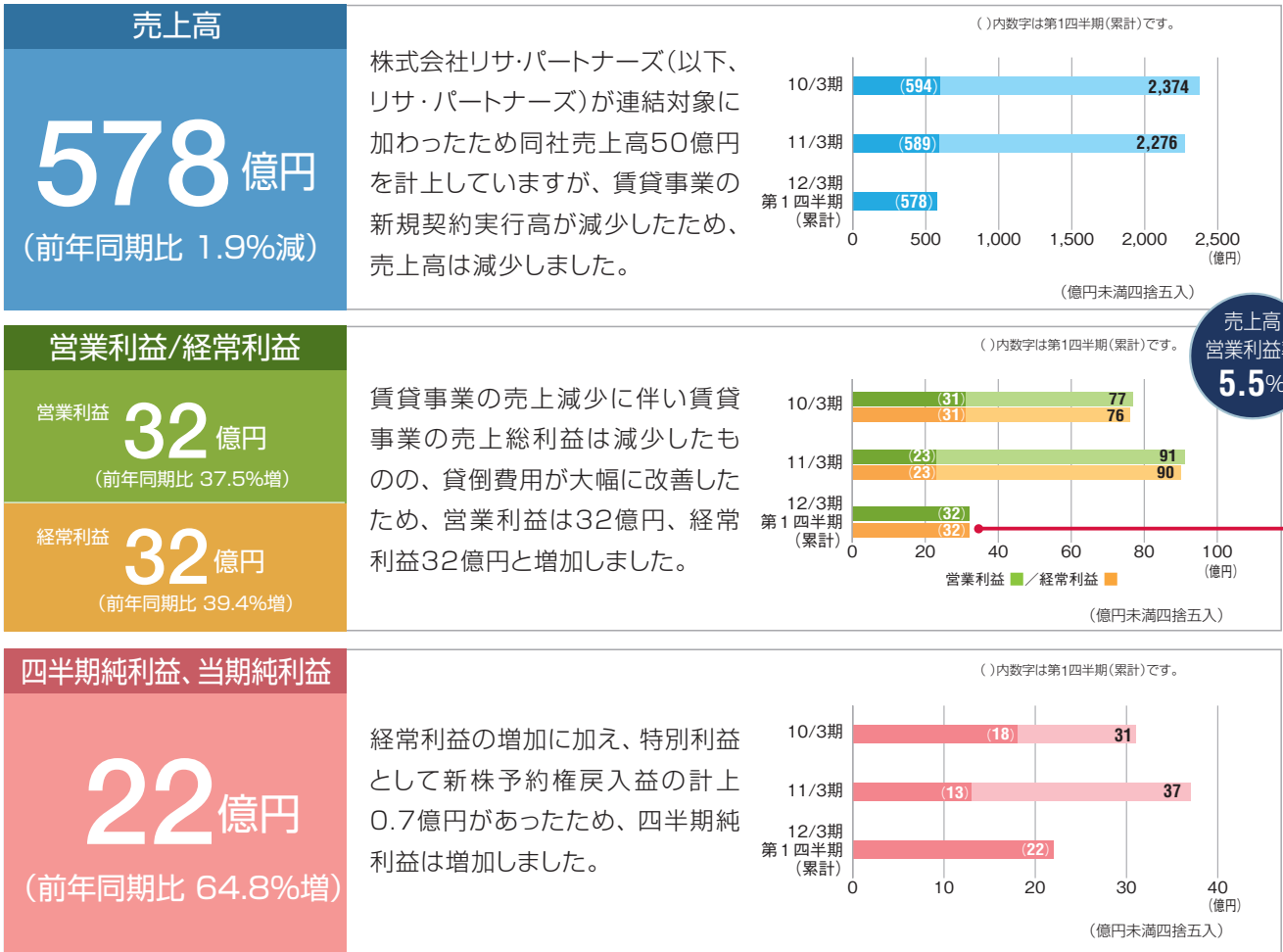
NECキャピタルソリューション株式会社



本冊子は環境に配慮するため、植物油インキで印刷しています。

証券コード：8793

2012年3月期第1四半期累計期間 連結決算ハイライト



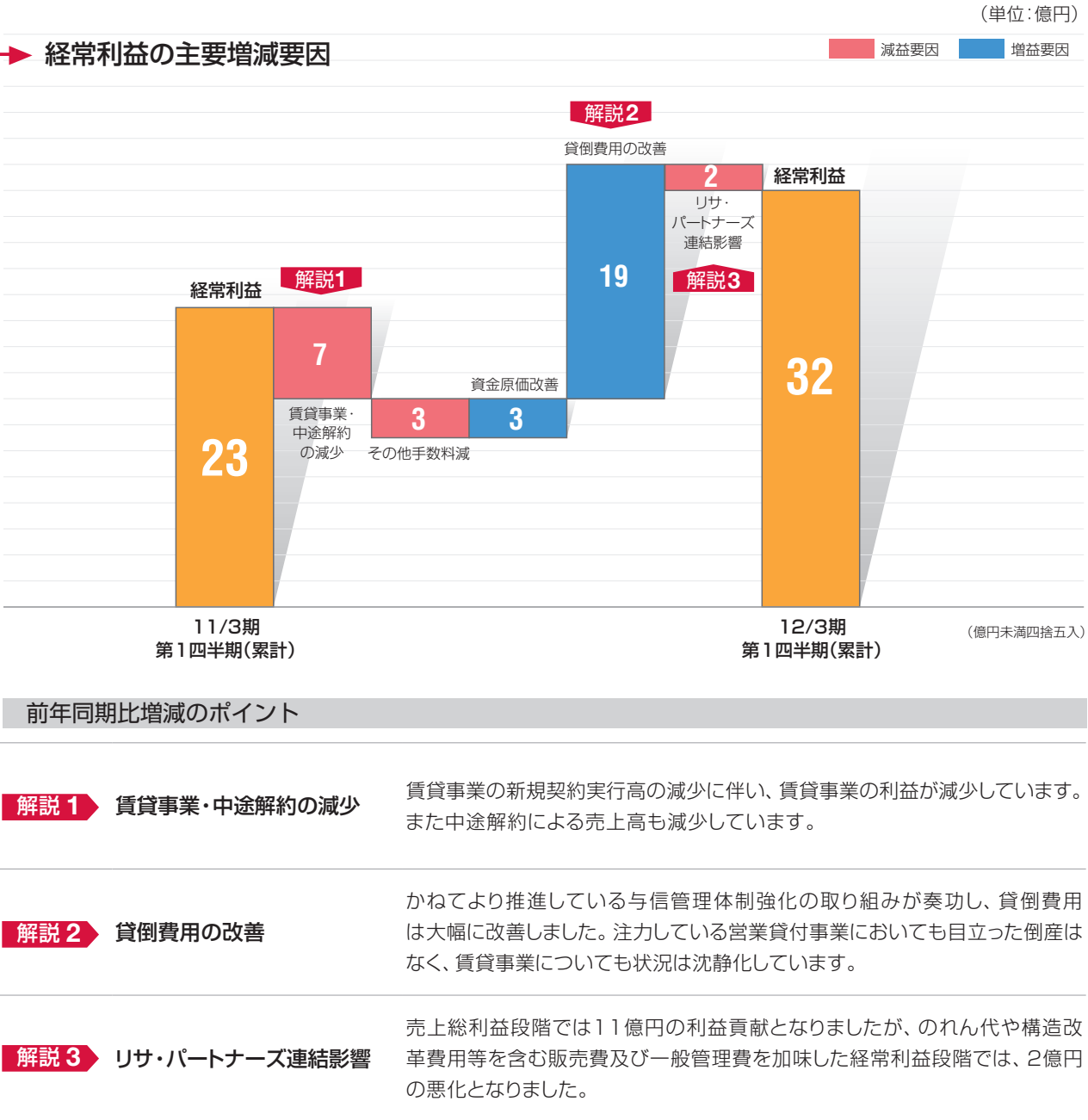
※ リサ・パートナーズが連結対象に加わっております。同社の決算期は12月であり、3月決算の当社とは決算期にずれがあるため、今回の決算では、同社の第1四半期(1～3月)の業績を取り込んでおります。

決算の詳細情報は
ウェブをご参照ください。

NECキャピタルソリューション IR

検索

<http://www.necap.co.jp/ir/>



営業の状況

ここでは足元の営業状況を示す指標につき解説いたします。

